

日高港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成27年1月

日 高 港 港 湾 管 理 者
和 歌 山 県

目 次

I. 変更理由	1
II. 港湾施設の規模及び配置に関する資料	2
1. 小型船だまり計画	2
III. その他の資料	6
1. 環境の保全に関する検討	6
2. 地方港湾審議会名簿	7

I . 変更理由

- ・プレジャーボート係留施設の不足を解消するため、塩屋地区において、小型船だまり計画を変更する。

Ⅱ．港湾施設の規模及び配置に関する資料

1. 小型船だまり計画

(1) 小型船だまり計画の必要性

和歌山県の水域（港湾・河川・漁港・海岸）においては、プレジャーボート等放置艇による船舶航行の支障・騒音・違法駐車・ゴミの投棄・景観悪化の問題等が顕在化している。

日高港塩屋地区についてはプレジャーボートのための係留施設がなく、現在、多くのプレジャーボートが放置されている状況である。

この問題を解消するため、今回、塩屋地区にプレジャーボートを係留するための小型船だまりを計画する。



図 2-1 小型船だまり計画位置図

(2) 小型船だまり計画の規模及び配置

小型船だまり計画の規模及び配置は、次のとおりである。

表 2-1 小型船だまり計画の概要

地区名	施設種類	内容	対象船	備考
塩屋地区	小型栈橋	1基	プレジャーボート 12隻	新規計画

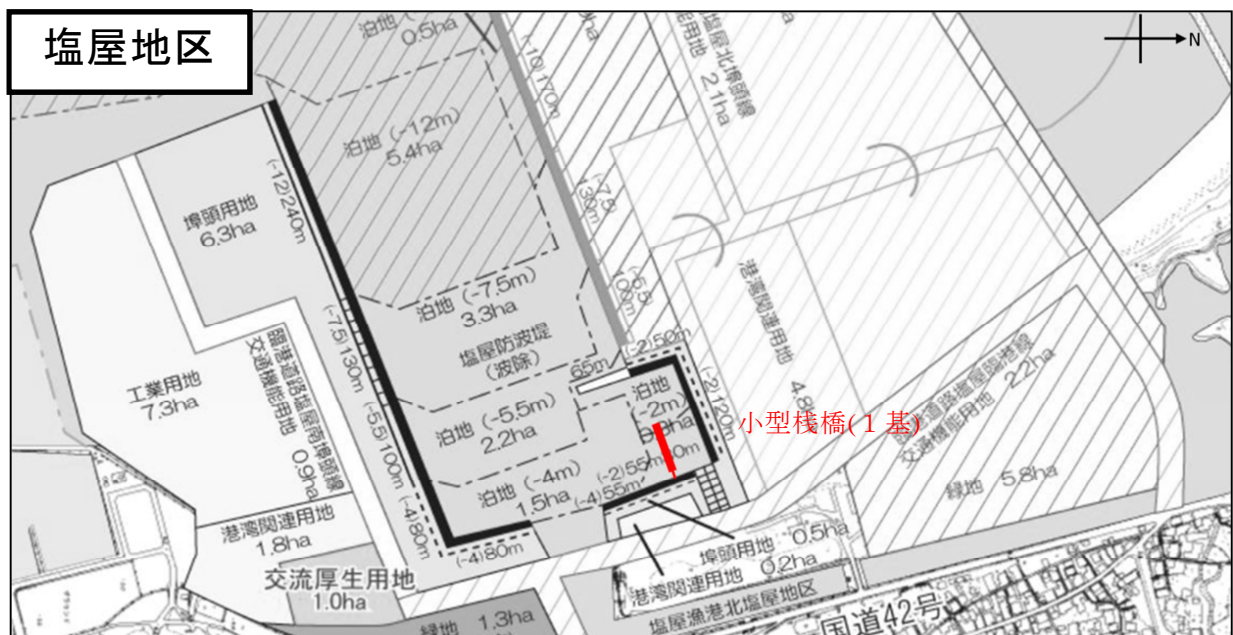


図 2-2 施設配置図

(3) 静穏度の検討

今回計画で位置付ける小型船だまりの静穏度については、次のとおりである。

1) 静穏度の目標値

静穏度の目標は、表 2-2 に示すとおりである。

表 2-2 静穏度の目標値

	係留施設前面波高 (H1/3)	稼働率
通常時	0.3m 以下	97.5%
異常時	0.5m 以下	—

静穏度の検討位置を図 2-3 に示す。

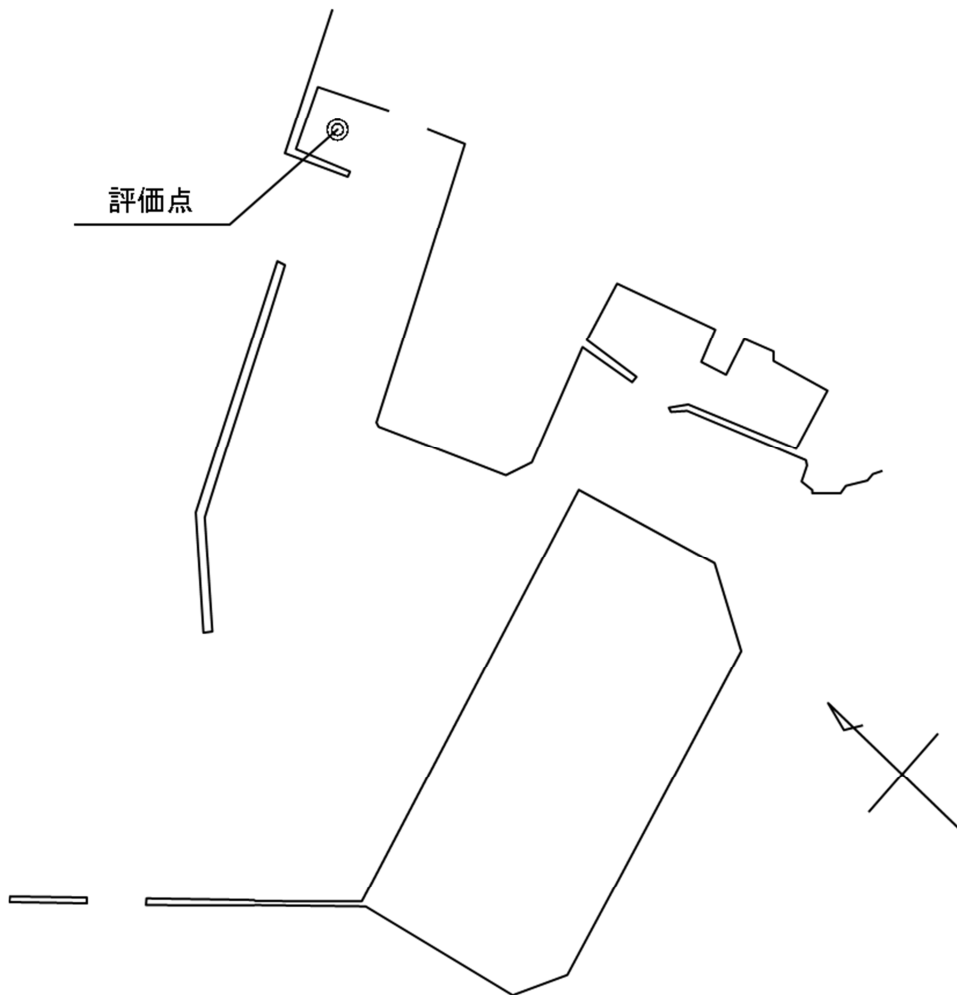


図 2-3 静穏度検討位置図

2) 静穏度の検討

①通常時

通常時における静穏度は、表 2-3 に示すとおり目標値を満足する。

表 2-3 通常時における静穏度

波向	0.3m 以上の出現率(%)	稼働率
W	0.00	100.0%
WSW	0.00	
SW	0.00	
SSW	0.00	
合計(%)	0.00	

②異常時

異常時における静穏度は、表 2-4 に示すとおり目標値を満足する。

表 2-4 異常時における静穏度

波向	入射波高(m)	波高比(Kd)	係留施設 前面波高(m)
SW	10.30	0.030	0.31

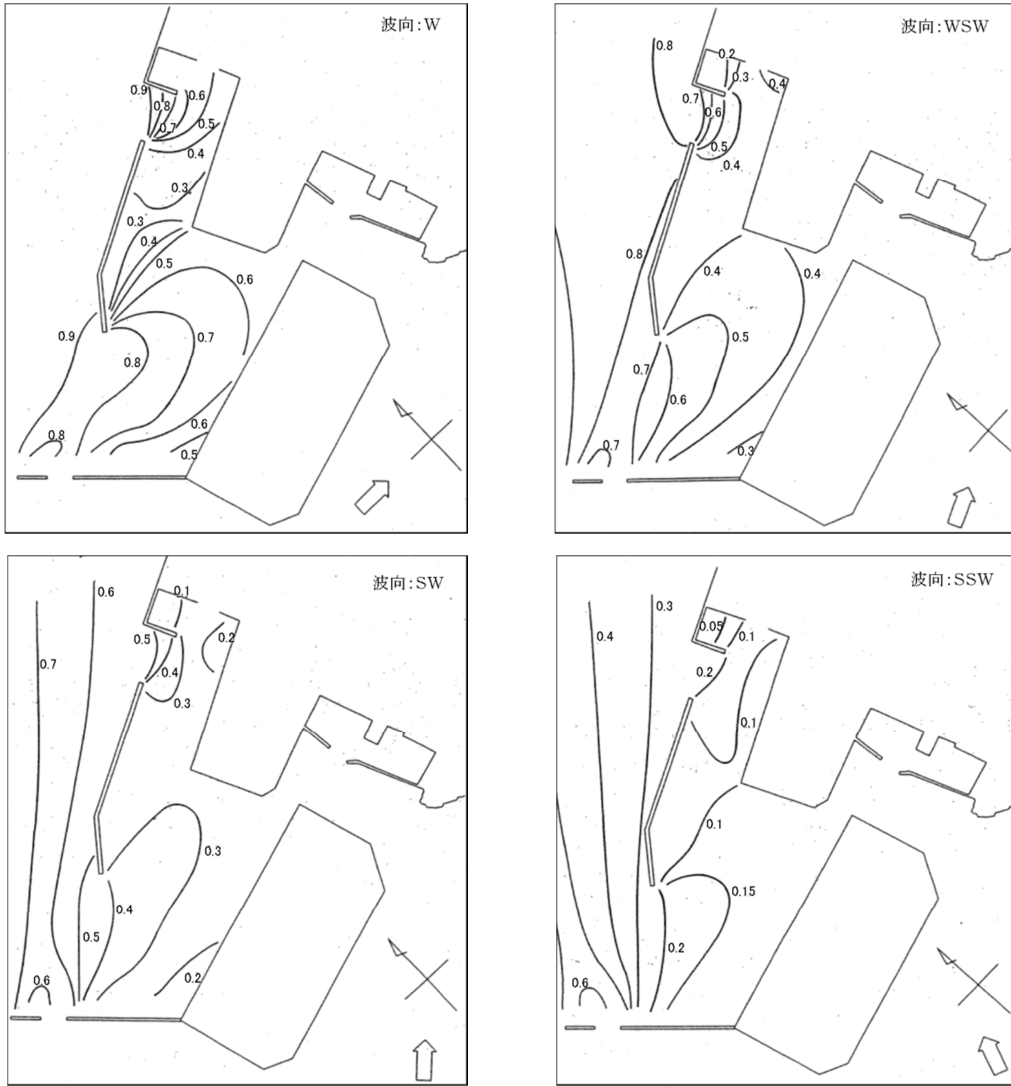


図 2-4 通常時における等波高比線図

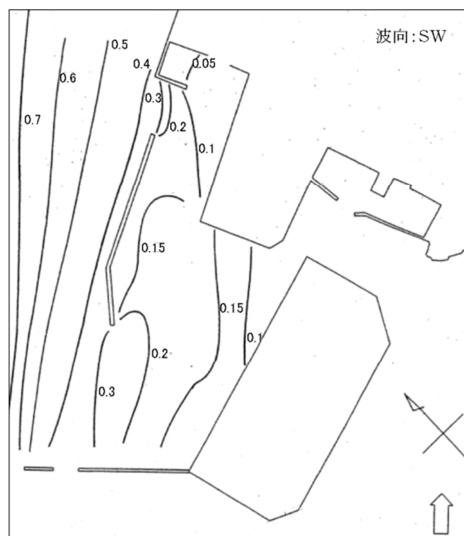


図 2-5 異常時における等波高比線図

Ⅲ. その他の資料

1. 環境の保全に関する検討

今回の計画は、地形変化が少なく、新たに生じる環境負荷もほとんどないため、大気質・生態系・景観等への影響は軽微なものとする。また、潮流・水質及び底質に与える影響も軽微であるため、周辺漁業に与える影響はほとんどないとする。

以上のことから、今回の計画は、環境に与える影響は軽微であるとする。

2. 地方港湾審議会名簿

和歌山県地方港湾審議会委員名簿

平成 27 年 1 月現在
(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名
第 1 号	黒田 勝彦	神戸大学名誉教授
	濱田 學昭	NPO街づくり支援センター代表・元和歌山大学特任教授
	辻本 勝久	和歌山大学経済学部教授
	谷 奈々	和歌山社会経済研究所研究委員
	千森 督子	和歌山信愛女子短期大学生活文化学科教授
	小池 信昭	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授
	和田 聡子	大阪学院大学経済学部教授
第 2 号	小林 道明	和歌山県海運組合理事長
	西村 雅臣	和歌山港運協会会長
	遠藤 飾	全日本海員組合大阪支部長
	橋本 孟士	和歌山下津水先区水先人会会長
	吉田 擴	御坊商工会議所会頭
	木下 吉雄	和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長
	第 3 号	尾花 正啓
神出 政巳		海南市長
望月 良男		有田市長
柏木 征夫		御坊市長
森下 誠史		美浜町長
第 4 号	坂本 登	和歌山県議会議員
第 5 号	後藤 真一	大阪税関長
	土屋 知省	近畿運輸局長
	大橋 功	田辺海上保安部長
	土師 亮	和歌山下津港長
第 6 号	森 昌文	近畿地方整備局長
	下 宏	和歌山県副知事